

面接試験（個別面接用・口頭試問用）

学部学科（課程）名等

情報学部 情報社会学科

選抜区分	学校推薦型選抜【共通テストを課す】（令和7年度）
面接員数	3人
面接時間	約20分（受験生1人に対して）
主な質問内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 志望動機、興味、関心 2. 情報社会学科の研究・教育内容について事前に調べたか（Web、MOVE、学部説明会、等） 3. どういう勉強をどのようにしたいか（内容面と方法面） 4. 卒業後の進路希望 5. 「ミニ講義」（情報社会学科教員による「ミニ講義」）の内容についての理解と、それに対する見解について <p>ミニ講義 （タイトル）Webの進化と社会的問題 （ねらい）Webの技術的な発展に伴い発生した社会的問題（デジタルタトゥー、著作権侵害、フェイクニュースなど）を題材にして、技術的な解決だけではなく、社会的な解決の必要性を考えさせ、受験生の理解力、論理的思考力、課題発見力を精査することが本講義の目的である。</p> <p>（概要）この講義では、まず、どのような経緯でWebに関する技術が提案され、世に出回り、普及して標準化されてきたか、技術の変遷を概観する。具体的には、Memex（ヴァネバー・ブッシュ）、ハイパーテキストとXanadu Project（テッド・ネルソン）、WWW Project（ティム・バーナーズ＝リー）について技術的な提案のポイントを述べる。特に、Xanaduは、双方向リンク、情報の永続的な保存とバージョン管理、著作物の自動課金など機能を盛り込んでいたが、WWWでは、一方向リンク、自動課金やバージョン管理はないなど、個人が自由に情報を公開できるようにし、さらにWWW（もともと研究者が使うことを想定している）のソースもオープンソースとして公</p>

開した。WWWは、仕様が簡単でかつ無償で公開されたため全世界に普及し、事実上の標準となったが、この仕様によって発生している問題、情報の拡散（デジタルタトゥー、ディープフェイク）、著作権侵害の一例について説明する。一方で、こういった問題の対応を想定していたXanaduにおいて、実現しようとしていた技術（情報の永続的な保存、著作権の管理、双方向リンク）について解説し、これを踏まえ、技術で問題を防ぐことができるかどうかを、デジタルタトゥー、ディープフェイクについて説明する。最後に、技術だけでは防ぎようがないところがあり、法や倫理や情報リテラシーなどが必要であることを考えて行く。

（質問）

（1）あなたが、最近よく利用するWebのサービスは何ですか。また、使っている理由を教えてください。

（2）ハイパーテキスト、ハイパーリンクについて、それぞれ説明してください。

（3）もし、Xanaduが実現しようとしていた技術（発信した情報はすべて永続的に保存される、著作物を使用するときは[閲覧も含め]課金される、双方向にリンクされるなど）がWWWに実装され世界標準になっていたら、WWWはどのように発展していたと思いますか。それはなぜですか。また、そういったプラットフォームを使いたいと思いますか。

（4）講義では、Webに関わる社会的問題のデジタルタトゥーやフェイクニュースや著作権侵害について、完全には解決するのは難しいことを見てきましたが、このような問題に対して、少しでも対処するには、どのような対策やアイデアがありますか。